

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2890100114 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 甲有会 | | |
| 事業所名 | グループホームアルテ石屋川 | | |
| 所在地 | 兵庫県神戸市東灘区御影塚町1-10-13 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年11月21日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年3月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>自立支援・介護予防 の観点から パワーリハビリテーションを週に2回実施しています。脳トレやカラオケ・外出・ジュニアプライダルなどの行事やレクリエーションに工夫しています。ハード面においては、複合施設となっており、1Fデイサービス2Fグループホーム3F～6Fが有料老人ホームとなっており、高級感のあるエントランスに、その方のプライバシーが守れるよう、リビングと居室が離れた構造となっています。</p> |
|--|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 H.R.コーポレーション | | |
| 所在地 | 兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年12月1日 | | |

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>地域の自治会長や住民の方との交流や、毎年の子供だんじりの来訪・地域の祭りへの参加等を継続し、交流の機会深めている。今年度はアルテ祭りを開催して、地域のボランティアの方が多く参加された。また、定期的実施されるアルテ歌声喫茶は、利用者家族がボランティアでピアノを演奏され参加者と共にお茶とケーキでくつろぎながら楽しい時間を持っている。管理者・職員は、利用者が日々その人らしく暮らせるように、今日一日をどうしたいか、どう過ごしたいかの意向を把握して希望に沿った過ごし方を支援し、職員は自由に過ごしている利用者一人ひとりとコミュニケーションをとり、利用者の意向が表出しやすいように取り組んでいる。また、下肢筋力低下予防を目的に週2回のパワーリハビリを実施し、利用者の体調や希望にあわせて、ユニットでも体操を行っている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および第三者評価結果

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 甲有会の理念でもある自立支援を目指してという理念に基づき取り組んでいる。朝礼で唱和を実施している。グループホームの理念は現在、スタッフで話し合い作成中である。 | 「自立支援を目指して社会に貢献する」の法人の理念に沿って支援に取り組んでいる。現在、職員で法人の理念をもとに地域密着型としての役割を明文化したグループホーム独自の理念の明文化に取り組んでいる。 | 地域密着型サービスとしての役割を理解し、法人の理念を下に現在グループホーム独自の理念をケアの実践の中で生かせる具体的な理念を作り上げることが望ましい。また、明文化されたグループホーム独自の理念を職員・利用者・家族で共有できるような取り組みも望まれる。更に、理念について定期的に研修会やミーティングを持ち、振り返りの機会を持つことを期待する。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会のだんじりや秋祭りなどのイベントを開催し地域の人々と交流している。 | 毎年、子供だんじりの来訪や地域の祭りの参加がある。今年度はアルテ祭りを開催し、地域のボランティアの方の参加も多く、交流の機会となっている。普段から地域の自治会長や住民の方との交流継続の中で、地域住民にアルテ石屋川への入居へのアドバイスをしてもらえる関係作りが出来ている。また、自治会より施設の場所の提供依頼もできてきている。さらに12月から、小学校との交流もできるようになった。地域の方へ喫茶の地域開放の案内を行い、来訪してもらい交流をもっている。第4月曜日に実施されるアルテ歌声喫茶は、利用者家族の方がボランティアで来訪されピアノを演奏され参加者とともにお茶とケーキでくつろぎながら実施している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 現在、運営推進会議等でしか話し合いを持つ機会がない為、あまり取り組めていない。 | | |

| 自己 者 第 三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4 | (3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議ではまず、日々の入居者様のご様子をプロジェクター使用してご紹介した後、家族様からの要望などを聞き、運営やサービスに取り入れて、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | 2ヶ月に1回会議を実施している。地域包括支援センター職員、自治会長、他のグループホーム管理者、家族の出席のもと開催している。会議は利用者の近況報告・参加者・利用者家族からの意見を聞き、運営に反映させている。 | |
| 5 | (4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 主に地域包括支援センターと連携し運営推進会議や東灘グループホーム連絡会などで意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。 | 運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらい事業所の状況を把握してもらっている。東灘グループホーム連絡会などで意見交換を行い連携を図る取り組みを行なっている。地域包括支援センターを通して市との連携を図っている。 | |
| 6 | (5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的には、身体拘束ゼロ方針であり、現在は身体拘束をしている利用者はいない。月に1回身体拘束委員会を開催している。 | 身体拘束をしない方針で取り組んでおり、月1回は、身体拘束委員会を開催している。研修で身体拘束や虐待の事例を挙げて、参加メンバーでディスカッションを行い知識を深める取り組みを行っている。スピーチロックについての研修では、全職員がケアの中でスピーチロックを行っていないか振り返りを行なう機会となっている。全館ICロックがかかっているが、施錠に関しては、安全面を考え実施しており、契約時には必ず利用者・家族にICロックについては、説明し理解を得ている。利用者が閉塞感を感じないように、利用者の意向に沿い外出の支援している。 | |
| 7 | (6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束虐待委員会が毎月1回開催している。基本的には、身体拘束ゼロ方針である。 | 研修を実施して虐待について理解を深めている。通報の義務も生じていることを説明し理解している。現場においても状況を踏まえ勉強会を実施している。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 入職時の研修内容の受講項目の一つとなっており、現在入居者様に後見人制度をご利用されている方が複数いるため、施設として必要性があれば推進していく必要性を感じている。 | 制度の利用により利用者がその人らしく暮らせる制度であると理解し、必要性があれば制度の利用を支援するようにしている。現在制度の利用者はいないが申請中の方がおられる。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前の契約等で不安、疑問点などあればご納得いただけるまで話し合っている。又入居後も家族様の要望があればご説明をしたり運営推進委員会で質疑応答を実施している。 | 契約時は相談員が契約内容について説明を行なっている。契約の終了に関しても契約時より説明し同意を得るようにしている。入院時は利用者の状態と家族の意向により、部屋は空けているようにしている。契約の改定は、法人で統一した契約書を使用することのことで全面的差し替えを行なったが、以降は変更部分のみの差し替えになることを契約書の中で謳っている。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見、苦情は職員や管理者にお話して頂けています。意見箱を設置し意見を頂いている。 意見箱内の意見をどう反映したか、月に1回掲示板に掲示している。 | 1Fの手洗いスペースの目に付きにくい場所に意見箱を設置している。普段から職員は、利用者・家族が意見や要望を言いやすい関係を継続している。また、電話でも意見や不満を率直に言ってもらえる関係作りが出来ており、運営に反映させたことを家族に報告を行い、更に、事業所独自で実施しているアンケート結果も掲示し公開している。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃から職員とのコミュニケーションを図り、意見等を聞いている。月一回フロアーミーティングを開催し、毎週火曜日は責任者会議を行い、職員の要望、意見を反映させている。 | 委員会・フロアー会議で意見を気軽に伝える機会を持つほか、普段から主任・施設長は職員の表情などをみて声かけを行い意見や要望を言いやすい雰囲気作りを行なっている。 | |

| 自己 者 第 三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|--|--|------|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 目標管理及び人事考課制度を導入し、定期的に自己評価を出し、フィードバック面接を実施している。 | | |
| 13 | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内研修を毎月二種類開催し職員全員が参加出来る様同じ講義を3回開催している。又、新人職員のOJTとして、プリセプターシップを導入し、職員チェックリストを基にトレーニングしている。 | | |
| 14 | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 運営推進会議で他の施設職員や地域包括支援センターの職員と情報共有を実施。又、二か月に一回のグループホーム連絡会などでも意見交換を実施している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者とのコミュニケーションを図り、本人が不安であることや、求めている事など聞き出し、要望の把握と不安の軽減に努めている。 | | |
| 16 | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | こまめに家族と連絡をとり、又、来設時に、要望などを伺い、期待に応えられるよう努力している。 | | |
| 17 | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者の家族様と相談する機会等を設け、どういったサービスが必要か見極めている。 | | |
| 18 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 第二の家という感覚で、アシステッドリビングホームの考え方を導入しており、一緒に過ごし、利用者から学ぶ姿勢と、支えあう関係またはその方の役割の継続・復活に努めている。 | | |
| 19 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族とご本人様のお手紙のやり取りの援助やご本人の不安軽減にご協力いただくよう、なるべくご参加いただけるよう援助している。 | | |

| 自己 者 第 三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|---|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご本人の友達や馴染みの人との交流はご家族がNOと言わない限り継続に努めている。必要に応じ来客の報告を家族に実施している。 | 馴染みの人の面会の連絡があれば面会が気持ちよくできるように支援している。契約時には面会についての説明を行い、家族が拒否しない限り利用者が馴染みの人との面会ができるように支援している。 | |
| 21 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の相性等見極め席の考慮をしたり、行事がある場合の移動方法なども仲の良い方同士と一緒に行動できるように配慮した行事計画を立案している。 | | |
| 22 | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去されたご利用者に対しても、イベントの案内や相談に応じたり、関係を続けていく努力をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | (12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前に面接を行い、本人の希望や意向を面接シートで把握し暫定プランを提案し現場に反映するよう努めている。 | 利用者一人ひとりが今日一日をどうしたいか、どう過ごしたいかの意向を把握して希望に沿った過ごし方を支援している。自由に過ごしている利用者一人ひとりと、なるべくコミュニケーションをとるようにしており、利用者の意向が表出しやすいように取り組んでいる。午前中に週2回パワーリハビリを実施し、それぞれのユニットで一日のうちで時間を変えて体操を行い、下肢筋力低下を予防している。あらかじめ時間の設定をしているが利用者の希望や思いで自由に参加できるようにしている。今のところ利用者に聞いけると返答がかえってくる方が多い。 | |
| 24 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面接や日々の生活の中で把握していく様努めている。アセスメントシートに記入し情報共有している。 | | |
| 25 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員の日々の生活記録の内容やアセスメントテーブルやカンファレンスで心身状態や一日の過ごし方などを把握出来る様努めている。 | | |

| 自己 者 第 三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|---|--|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 現在ケアマネや職員が話し合いを重ねて、当事業所での取り組む姿勢の方向性が見えてきている。 毎週のケアカンファレンスをなるべく多くの職員が参加できるようにしている。 | 書式改善委員会にかけて独自のケア評価表を作成している。毎月利用者一人ひとりに対してケアの実施目標を設定し、実施内容を毎月評価している。施設サービス計画書に沿ってケア評価表を作成している。介護記録には、計画に沿ったケアの実践がわかりやすく記載されている。 | 利用者の些細な変化や利用者の状態の変化に予防的に支援を行なうために月1回程度は利用者の状況に変化がないか確認を行なうことが望ましい。 |
| 27 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | カルテ等で日々の様子などを共有し、申し送り等で情報共有したりしている。カンファレンスなどでも報告しケアプランの見直しに活かしている。 | | |
| 28 | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個別の散髪や外出等を家族様と相談し個別の外出支援に対応している。 また、1Fでのパワーリハビリの実施等リハビリにも力をいれている。 | | |
| 29 | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 月一回の歌声喫茶を企画し、今後定期的の実施し、行く行くは地域に開放していく予定。 | | |
| 30 | (14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に利用者・家族にかかりつけ医を決定して頂いている。受診などの場合はなるべく家族様に行ってもらっているが、無理な場合はこちらで行っている。必要に応じて、利用者の症状を連絡し対応の相談を行っている。 | 原則受診には、家族に受診同行してもらい、受診の際は利用者の状況を説明して家族を通じてかかりつけ医に報告してもらっている。月1回の甲有会病院から内科医の往診があるほか、皮膚科・歯科の往診もある。看護師資格を持つ管理者により利用者個々の健康管理が行われている。 | |
| 31 | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常的にいつもと違う状態だと感じた時には、看護師に相談している。 | | |

| 自己 者 第 三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|--|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | (15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した際、医療機関と情報共有し、又当施設は複合施設であり、有料老人ホームでは、医療関係者、時には主治医と連絡をとり、退院後の受け入れ環境整備に役立っている。 | 契約時に入院時の部屋キープは1ヶ月としているが、利用者・家族の意向や状態によりキープ期間を調整している。入院した場合は、医療機関へ看護師資格を持つ管理者がナースサマリーを作成して情報提供している。医療機関とは情報交換を行い退院時は情報提供を必ず受けるようにしている。 | |
| 33 | (16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 当事業所の方針は、運営推進会議等でもご説明し、契約書の内容にあげている。現在は、実績がないが、車いす状態の防止のためにリハビリに取り組んでいる。 | 重度化・終末期については、車椅子が必要な状態になれば退去になるため、ターミナル期の方でも歩行していれば事業所で過ごしていただけるように支援している。重度化・終末期の方針については、マニュアル化している。 | |
| 34 | (17) ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急処置の研修を施設内研修で実施している。全ての職員が研修に参加できるよう、施設内研修の日程を調節している。 | / | |
| 35 | (17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、日中、夜間を想定した防災訓練を消防署と協力し行っています。また食材や飲料水などの備蓄も実施している。 | 年2回昼夜想定で防災訓練を消防署の協力で実施している。施設の建物全体はスプリンクラー等整備されており、グループホームのキッチンも電化している。昼夜想定した避難誘導訓練を実施している。 | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (18) | | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉使い等、日々のケアの中で職員同士注意し合いプライバシーや尊厳を守るよう心掛けている。 モラル・高齢者虐待勉強会等も開催し、自分達の行動を顧みる機会を持っている。 | 利用者一人ひとりの尊厳を大切に考え、言葉遣いや、接し方に注意して日々のケアを行なっている。接遇や高齢者虐待などの研修の中でも個人情報やプライバシーの確保について話し、職員同士で注意をしていくことができるように取り組んでいる。 | |
| 37 | | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者と出来る限りコミュニケーションを図り、思いや希望など表現できるよう心掛けている。出来る能力を尊重し、し自立支援に向けた取り組み、参加に向けて支援している。 | | |
| 38 | | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様の体調や心の動きに配慮し出来るだけ本人の意思決定を促し、本人のペースを乱さないよう支援している。 | | |
| 39 | | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 月1回、訪問美容の機会を設けたり、又、ご自身で、お気に入りの美容院にいけるよう援助している。洋服などもなるべくご自分で選んで頂けるよう支援している。 | | |
| 40 | (19) | | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎食時、汁物は利用者様と献立に合わせて作ったり、おやつも食べたいものを一緒に作っている。 片付けも個別に考慮出来る方はお手伝いをしていただいている。 | 委託業者の管理栄養士が立てた献立で調理した食事の提供を受けている。現在管理栄養師・トレーナー・店長が栄養バランスを確認した献立を立てている。ご飯と汁物は、各フロアで準備している。配食された食事の配膳や片付けを、利用者の希望や状況を考え参加してもらえるように支援している。また、おやつは利用者の希望や要望を聞き一緒に作っている。誕生日には、ケーキを購入して利用者とお祝いしている。 | |

| 自己 者 第 三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|---|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分は、一日1500ml栄養は、1,600kカロリーを基準にしている。水分補給が少ない時は随時チェックし補給に努めている。その方の嗜好を伺い水分の種類を選択している。 | | |
| 42 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは高齢者にとり、肺炎予防にもなり大切であることは周知しており、口腔ケアは毎食必要に応じて援助している。自分で出来る方には声掛け、見守りでやっている。 | | |
| 43 (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 出来る限りオムツ使用は控えている。ご家族様から要望があった場合、ケアカンファで検討し使用するか否かを決定している。出来る能力を大切に、自立支援に向けて取り組んでいる。 | リハビリパンツを使用されている利用者は3名で、後はパンツやパットのみの使用者が多くほぼ自立している。利用者の状況により声かけや誘導を行い自立支援を行なっている。 | |
| 44 | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | まず、水分1500ml摂取を目標におき、排便を習慣化するため、決まった時間にトイレ誘導するなどの実施をし、トイレでのポーズ（腹圧がかかりやすい）が取りやすい環境設定に心掛けている。 | | |
| 45 (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴曜日は決めているがご利用者様が入浴日でない日も希望があれば入って頂いている。 | 最低週2回は入浴してもらえるように支援しているが、利用者の希望により入浴の希望があれば毎日入浴できるように支援している。声かけや誘導・見守りを行い利用者が気持ちよく入浴ができるようにプライバシーに配慮しながら支援を行なっている。 | |

| 自己 者 第 三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|---|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご利用者のペースを乱さない様、起床時間も決めず本人に合った過ごし方を提供している。 一日の流れもなるべく生活習慣にあわせる様ケアプランをたて実施している。 | | |
| 47 | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬説明書をつくりスタッフに入居者様がどういった薬を服薬しているかをわかる様にしている。 | | |
| 48 | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご利用者様が得意としている事、また趣味など面接時やコミュニケーション等で引き出し、日々の中で楽しみごとがあるよう支援している。 | | |
| 49 (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩やお買い物等に出かけたりして。出来る限り利用者の要望を聞いて、支援している。又、お花見、紅葉狩り、美術館や、外食ツアーを企画し、希望者に実施している。 | 利用者は日常的に施設の屋上に出て日光浴や、一面に広がる山の景色から季節の移り変わりを楽しんでいる。利用者から外出や散歩の訴えがあれば職員が付き添い外出支援をしている。外食ツアーを企画し、同建物内の有料老人ホームの利用者と共に外食を楽しんでいる。土、日にかけて利用者と職員は日々の食事の食材やおやつで使用する材料の買い物に出かけている。花見やもみじ狩りなど季節に合わせた外出も取り入れている。 | |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 外出や散歩時に好きなものを買って頂いたりしている。 | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 現在、手紙のやり取りは支援しているが、電話のやり取りは現在のところご希望がないので実施していない。 | | |

| 自己 者 第 三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|---|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者個々の生活ペースのメリハリができ、利用者が一人で孤立しないような空間作りを心掛けている。ベランダには季節に合わせた野菜や花などの植え込みも行い収穫の喜びを味わえるようにする予定です。 | 外観やロビーは高級マンションを感じさせる佇まいで、施設の1階のエントランスは、地域交流スペースになっている。グループホーム全体はやわらかい色調で整えられ、明るい自然光が差し込んでいる。食堂の共有スペースはテーブル・ソファを配置し家庭的な雰囲気の中で思い思いに過せるように配慮されている。 共有スペースからベランダに出入りでき、日光浴をしながら気の合った利用者が自由に過ごすことが出来る環境が整っている。 | |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂の共有スペースでは、気の合う方々が同じテーブルになるよう配慮している、ご自分の意思でユニット内はご自由に移動していただく雰囲気であり、ベランダは全面開通しており、ベランダで利用者同士が話せる工夫をしてる。 | / | / |
| 54 | (24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居される時点で家族様に使い慣れたものなどを持ち込んで頂きその人らしく過ごせる様配慮している。 | 落ち着いた色調の居室は、利用者の馴染の家具や、小物や写真を飾り落ち着いて過ごせる部屋作りが見られる。手作りの作品を部屋の入り口に飾り、部屋間違いにも配慮されている。 | |
| 55 | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者自身の居室が分からなくなるに居室前に自分で作った飾りなどおいて混乱しないよう工夫している。キッチン等もすぐ傍にあり移動が自由にできるよう配慮している。 | / | / |